

人権教育だより『ひだまり』 第2号

令和5年11月13日発行

人権感覚の涵養 ～他者の人格を尊重し、自己肯定感の向上を図ろう～

江津工業高等学校 人権教育担当

🏀 球技大会を前に 🏀

早いもので暦の上では冬の始まり。例年以上に暖かい日がつづき、カメムシもたくさん見かけますね。大盛況となった学園祭の次は球技大会。地区高体連への出場をかけて気合の入っているチームもあるかもしれません。バスケットボールもサッカーも、チームで試合に臨みます。スポーツが得意なひともしれば、苦手なひともあります。学校行事ですので、みんなが楽しく気持ちよく過ごせますように！

1学期の球技大会では、大きな声で声援をおくる光景がとても印象的でした。思わず応援したくなるような、一生懸命プレーしている姿も素敵ですし、のどがかわるくらい一生懸命応援している姿も本当に素敵です。勝ちにこだわると、ミスや負けに対して悔しい気持ちも大きくなるかもしれませんが、そんなときこそどんな声かけがいいのかなあと考えてみてください。

🌸 はなまる日本語学校のチームも参加されます 🌸

校内レガッタ大会に続き、はなまる日本語学校からも競技に参加されます。課題研究などですでに関わりを持っている人もいるかもしれません。貴重な機会ですので、対戦して終わりではなく交流できるといいですね。ここで、1学期の人権教育講演会でも配られた、『「やさしい日本語」の手引き』を思い出してみてください。「やさしい日本語」とは、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。球技大会にとどまらず、地域でも多くの外国人の方が生活されていますので、参考になると思います。さらに、外国人だけでなく、子ども、高齢者、障がい者の方などにとっても分かりやすいコミュニケーション手段です。

こんなとき、「やさしい日本語」で、どう伝えるとよいでしょうか？

「土足厳禁」

→

「集合！整列！」

→

「大津波警報 直ちに高台へ避難してください。」

→

「江の川の水位が警戒水位を超えました」

→



「やさしい日本語」の作り方

引用：公益財団法人しまね国際センター『「やさしい日本語」の手引き』

POINT！

文・語彙
情報

 単語や文の構造を簡単に、分かりやすく！
必要に応じて説明を加え、相手に理解しやすく！

- 1 伝える情報を選択し、必要に応じて補足 ～伝えるべきことは何か考え、受け手にとって必要な情報に
- 2 ひとつの文を短くし、簡単な構造に ～主語と述語を明確にする
例) 「○○であり、▲▲なので、」
→ 「○○です。▲▲です。だから、」
- 3 難しい言葉は、簡単な言葉に言い換え ～ただし、災害用語や日常生活でよく使うことばなど、知っておくとよいことばはそのまま使い、ことばの後に説明を加える
例) 今朝→今日の朝、余震→余震（あとからくる地震）
- 4 曖昧な表現は使わない 例) 「おそらく」「たぶん」「思われます」などは避ける
- 5 文末は、なるべく統一 ～「です」「ます」「してください」形に
- 6 漢字にはルビ（ふりがな）をつける
- 7 その他・・・発音や意味が原語と異なる場合があるので、カタカナ外来語はなるべく使わない
例) 「デマ」→「うその話」
 - ・「めちゃめちゃ」「ふらふら」等の擬態語や、「ゴロゴロ」等の擬音語は使わない
 - 例) 「めちゃめちゃです」→「壊れています」
 - ・二重否定は使わない 例) 「行かないわけではないです」→「行きます」
 - ・動詞を名詞化したものは、できるだけ動詞文に 例) 「揺れがあった」→「揺れた」
 - ・文節で区切って余白を入れ、「分かち書き」に
 - ・元号（令和・平成等）は西暦に、年月日は用いない。方言は標準語に。
 - ・時間は12時間表示に

会話で伝えるときには、身ぶり手ぶりで示したり、ゆっくりはっきり言うことも大切です

表面のやさしい日本語での伝え方の一例

「土足厳禁」 → 「靴を脱いでください」

「集合！整列！」 → 「集まってください。一列に並んでください。」

「大津波警報 直ちに高台へ避難してください」 → 「大きい 津波（とても 高い 波）がきます。今すぐ、高いところへ 逃げて ください」

「江の川の水位が警戒水位を超えました」 → 「江の川で 水が たくさん 流れています。水の 量が多いです。 危ないです。」